



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成24年01月09日 第544号「週刊五十嵐レポート」

「デンマルク国の話」

1月7日(土)付、日経新聞の「マーケット2」欄のコラム「大機小機」の中に「デンマルク国の話」が出てきました。

「人口減社会に入った日本は今年を新たな“三国一”を目指す元年にしてほしい。それにはどうしたらよいか。

内村鑑三が1911年の講演を本にした『デンマルク国の話』がひとつの参考になるかもしれない。19世紀、戦争に敗れ肥沃な土地を失ったデンマークは植林や教育などで復活、1人当たりの富は英米独より多いと説いた。

デンマークは1世紀たった2010年も1人当たりGDPが世界5位、米英独や日本の14位よりも上である。世界の幸福度調査で首位になることも少なくない」(IMF - World Economic Outlook 2011年9月版によるとデンマーク6位、米10位、日本17位、独19位、英22位、ちなみに1位はルクセンブルク)

早速、「デンマルク国の話」を購入し読んでみました。1864年、ドイツ、オーストリアとの戦争に敗れ、肥沃な土地を奪われました。デンマークにとって厳しいときに、1人の軍人ダルガスが登場し、植林をはじめ、長い年月をかけて肥沃な土地にし、豊かな国になっていきました。失望から希望へ。

内村鑑三は言いました。「第1に戦敗必ずしも不幸ではない。国は戦争に負けても亡びはしない。国の興亡は戦争の勝敗ではなく、民の平素の修養による。善き宗教、善き道徳、善き精神があれば国は衰えない。第2に天然。富は有利化されたエネルギー。エネルギーは太陽光線、海の波、吹く風、噴火する火山、これを利用できれば、ことごとく富の源になる。第3に信仰。国の実力は軍隊でなく、金でもない。信仰である」

1911年は日露戦争の勝利(1905年)に沸いていたころ。(坂の上の雲)

今の日本国内には無限の資源があります。再構築し、外に発信していくこと。諦めるにはまだ早い。

ちょっと
気づける出来事

1月5日(木)のブログにも書きました。1月4日(水)付、日経新聞のスポーツ欄のコラム「フットボールの熱源」にFCバルセロナの人材教育のことが書かれています。(ここでも「FCバルセロナの人材育成術」を読みました)

FCバルセロナはトップチームから下部組織のチームまで一貫して教育を貫いています。テクニクもさることながら人間教育を重視しています。

トッププロになれるのはほんの一握りの人たち。

FCバルセロナでの教育とは、子供を社会に送り出す準備をすること。将来、大人として社会でしっかりと生活するために必要な価値観を教え込むこと。「敬意」「忍耐」「犠牲」「努力」「謙虚」といった価値観。

子供を教育するとは、子供が幸せになるように準備すること。

多くのチームが大金を払って大物選手を集める中、FCバルセロナのトップチームには7~8人下部組織出身がいます。異色です。

FCバルセロナは「勝利」と「育成」を両立させているところにすごさがあります。我々も「勝利」と「育成」の2頭を追い続けましょう。



一口メモ
成功の秘訣

失敗とは「未解決な問題」にすぎない

自己憐憫(れんびん)を防ぐには、「問題の種は自分がまいた」と納得すればいい。結婚生活の問題? それならば、あなたが結婚したことからはじまっています。事業の問題? まず、あなたが事業経営に乗り出したことが間違いのもとです。

あなたがゴールを設定し、決断を下し、書類に判を押した時点で、すでにトラブルの芽は生まれているといえないだろうか。

ここで、積極思考人間は、自分でまいた種を自分で刈り取るのは当然だと前向きになるが、不可能論者は、自分の不遇を他人のせいにする傾向がある。自分を犠牲者だ考えるのだ。

問題から逃げようとすればするほど事情は悪くなる。否定的な人間は、他人の建設的な意見やアドバイスを聞こうとしないが、自分の責任で問題を解決しようとする積極的な人間は、行動修正をして危機を乗り越え、新しく知恵と力を身につけて、より大きな成功へと歩き続ける。

ロバート・シュラー著「いかにして自分の夢を実現するか」(三笠書房)

- 週刊五十嵐レポート 毎週月曜日発行
- 町コン経営塾「会社成功塾」 毎週日曜日、月曜日 午前10時~12時。
- 町コン・ランチェスタービジネスセミナー 毎月東京・大阪開催

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

